

緒 言

お茶の水女子大学グローバル協力センターはお茶の水女子大学の国際貢献の担い手として設立され、アフガニスタンへの教員協力をはじめとするさまざまな事業を展開してきた。平成17年度から21年度の5年間、文部科学省特別教育研究経費により、事業をかつ発展させてきた。また事業の実施に当たっては国内外の女子大学はもとよりさまざまな国連機関、国際機関、援助機関、NGO、市民の皆さまのご支援をいただいていた。

本報告書はこうした多くの機関や方々への感謝をこめて活動をまとめたものである。もとより、私どもセンタースタッフの力不足から皆さまのご期待に十分に応え得ていないことは承知しているところである。しかしながら、本学の教員学生の国際貢献への思いを十分とは言えないまでも社会に見える形で提示することは出来たのではないかと思う。

この特別教育研究経費はそのための大きな助けであり、心より感謝している次第である。事業概要は以下のとおりである。

事業名

JICA、国内五女子大学コンソーシアム、アフガン・パキスタン・マレーシア・ベトナム・カンボジア等との連携協力による途上国女子教育・乳幼児保育の人材育成の支援強化充実

キーワード

アフガニスタン、途上国女子教育支援、五女子大学コンソーシアムによる連携支援、心のケア・プログラム

事業概要

五女子大学コンソーシアムと連携しつつ、途上国の女性や乳幼児の支援を行なう。特に、紛争や災害によって被害を受けた女性たちの「心のケア」や基礎教育基盤の充実に重点を置いて、国内外の諸機関とも連携しながら研究、支援活動を実施する。

事業実施主体

お茶の水女子大学グローバル協力センター、国際協力機構（JICA）、津田塾大学、日本女子大学、東京女子大学、奈良女子大学

センタースタッフ

平成17年度—平成19年度：三浦徹教授（センター長）、高橋真央講師

平成 20 年度：森 義仁准教授（センター長）、高橋真央講師

平成 21 年度：内海成治教授（センター長）、高橋真央講師

事業実施年度

平成 17 年度—平成 21 年度（5 年）

事業実施経費総額 100,016 千円

（単位：千円）

区分	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	計	備考
人件費	3,920	3,860	4,722	3,560	4,500	20,562	客員教授給与、アカデミックアシスタント給与、事務補佐員給与など
運営費	26,899	9,544	8,531	10,771	21,197	76,942	国際シンポジウム開催費、教材開発費、海外調査研究旅費など
設備費	2,512	0	0	0	0	2,512	インテリジェントプロジェクター一式
計	33,331	13,404	13,253	14,331	25,697	100,016	

本評価報告書を作成するに当たり、5 名外部有識者の方々のご意見を伺うことができた。第 3 章にまとめたが、澤村信英教授（大阪大学大学院）および黒田一雄教授（早稲田大学大学院）には文書にて、また西川潤名誉教授（早稲田大学）、池上清子博士（国連人口開発基金東京事務所長）、鈴木均博士（アジア経済研究所）のお三方には直接お目にかかってお話しを伺った。お忙しい中を時間を取っていただきました。こうした先生方のお話しの中から今後の活動の重要な示唆をいただけたことにも感謝している次第である。